



2023年を振り返る

「水都大垣再生プロジェクト」スタート

良質で豊富な地下水の恵みにより、古くから「水都」と呼ばれてきた大垣のイメージを改めて醸成して、本市の魅力を高める「水都大垣再生プロジェクト」がスタートしました。

7月7・8日には、水を身近に感じ楽しんでもらう催し「かわまちテラスin湧水水門川」を開催しました。特別イベントとして、7月7日「川の日」の午後7時7分に全国一斉に乾杯する「水辺で乾杯」が四季の広場で行われたほか、「水都大垣再生会議」も開催し、市民の皆さんに「水都」を改めて考えていただく場を設けました。

そのほか「水都大垣ブルーライトアップ」や「足水体験」などを実施しており、今後も「湧水のまち水都大垣」の魅力を広く発信していきます。



「川の日」に合わせて実施した「水辺で乾杯」

今年も残すところあとわずかとなりました。皆さんにとってこの一年はどんな年でしたでしょうか。

今回は、大垣市の一年間の市政の動きや街の出来事を振り返ります。

市独自の「物価高騰対策」実施

物価高騰の影響を受けている市民の皆さんをいち早く支援するため、国の交付金を活用して市独自に次の3つの事業を実施しました。

①子育て世帯「夏休み応援金」を支給

光熱水費や食費の負担増加が見込まれる夏休み期間中に、高校生以下の子どもを養育している人を対象に、子ども1人につき1万円を支給しました。

②医療・介護・障がい・保育施設等に支援金を支給

民間の医療福祉施設などが、市民の皆さんへ持続的かつ安定的なサービスを提供できるよう、業種や病床数、定員などに応じて、10～50万円の支援金を支給しました。

③学校給食費の増加分を公費負担

物価高騰のため令和5年9月分から改定されている学校給食費について、増加分を公費で負担することにより、保護者負担額を令和6年3月分まで据え置いています。

そのほか国や県と連携して、住民税非課税世帯等への給付金や第2子以降の出産への祝金、高校就学準備等への支援金の支給なども行いました。

「こどもまんなか応援サポーター」宣言 ～園での紙おむつ処分や子ども食堂運営支援拡充も～

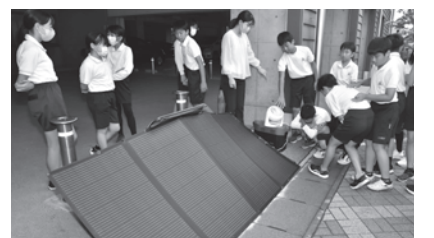


市は8月18日に、「こどもまんなか応援サポーター」を県内の自治体としては初めて宣言しました。この取り組みは、こども家庭庁が進めているもので、こどもたちのために何がもっともよいことかを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できるような社会の実現に向けて自らもアクションを行うものです。

また、本市では子育て支援策の充実をさらに進めており、保護者が持ち帰りしていた公立保育園等の園児の使用済み紙おむつを園での処分に変更したほか、子ども食堂への新たな支援として、開設や運営に必要な備品購入への補助なども始めました。

避難所となる全小中学校に 「ポータブル太陽光発電機」配備

災害時の備えとして、指定避難所となる市内の全小中学校にポータブル太陽光発電機を新たに配備し、非常用電源の確保を充実させました。



イビデン株式会社から寄付された3億円で創設した「未来づくり基金」を活用して実施したもので、最大出力400ワットの折り畳み式ソーラーパネルと充電式ポータブル電源を1セットずつ導入して、平常時には自然エネルギーを学ぶ授業の教材などとしても使用します。

「大垣まつり」市役所新庁舎前で 初めての掛芸披露

ユネスコ無形文化遺産に登録されている「大垣まつり」が、5月13・14日に八幡神社周辺などで開かれました。コロナ禍のため、2日間開催は4年ぶり。

13日の試楽では、八幡神社で神事の後に、各軸が奉芸し、その後、市役所新庁舎では、開所してから初めての掛芸披露があり、巧みなからくり芸やかわいらしい子ども舞踊などに、客席から拍手と歓声が上がりました。

軸が提灯を灯す「夜宮」と14日の本楽の軸行事は、あいにくの雨で中止となりましたが、軸蔵などからくり芸や踊りの披露などが行われ、県内外から訪れた見物客を楽しませました。

